

学校関係者評価 報告書

～令和3年度～

学校法人 日本航空学園
(専) 日本航空大学校

1 学校関係者評価委員会の目的

学校関係者評価委員会は、日本航空大学校（以下「本校」と略す）の運営状況（教育理念・目標、教育活動の現状や課題、経営状況、社会貢献など）について学校関係者より意見を聞き、その評価に基づき学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

2 学校関係者評価委員会委員名簿

| 規定第2条（構成） | 所属 | 名前（敬称略） |
|---------------|---------------------------------------|---------|
| 専門分野における業界関係者 | 株式会社第一システム エンジニアリング 管理部企画管理課 課長 | 三寄 岳志 |
| 専門分野における業界関係者 | 石川県工業試験場 博士（工学） 次長 兼 企画指導部 部長 | 前川 満良 |
| 保護者 | 学校法人 日本航空学園 雄飛会輪島会長 | 松下 直子 |
| 地域の公共団体等の関係者 | 能登空港 ターミナルビル株式会社 代表取締役専務 | 前田 正彦 |
| 地方の公共団体等の関係者 | 輪島市企画振興部 部長 兼 課長 | 木下 充 |

3 学校関係者評価委員会

日 時：令和4年9月29日（木）13:30～15:00

場 所：（専）日本航空大学校 応接室 および オンライン

出 席 者：学校関係者評価委員会、及び本校事務局側教職員

4 評価対象期間

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

5 学校関係者評価委員会次第

(1) 開会

小林学長より挨拶

(2) 出席者確認

各委員 挨拶

(3) 資料確認

評価委員会次第、委員名簿、
日本航空大学校 自己評価・自己点検集計表

(4) 議題

第1号議案 「令和3年度 自己評価報告書」説明および評価

学校関係者評価委員による評価は、令和3年度自己評価の項目ごとに事務局から説明を行い、各委員から評価・意見をいただいた。

（詳細別途）

第2号議案 その他

学校関係者評価委員会における評価

評価は、4～1の点数で記載します。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
(評価点数は委員の平均値を掲載)

★1. 教育理念・目標

評価 3.3

- ・課題意見「学科内での教育目標や育成人材像が明確になっていない」
→The manual of college lifeに教育目標や育成人材像が記載されていることを周知する。
各学科の状況、企業業界のニーズを把握して必要があれば、学科の教育目標を見直していく。
- ・課題意見「業界ニーズの把握が、一部企業からのものに偏っている」
→企業訪問した後は必ず簡単な報告書を作成して教職員に回覧し、業界の状況動向把握につなげている。
- ・評価項目「各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」
→文科省の公募事業（企業業界と提携してDX人材養成事業）は採択されて、下期よりスタートしている。

★2. 学校運営

評価 3.2

- ・課題意見「一部の教員への業務量に偏りがみられる」
→学科長と各教員、および学長と各学科長による面談は進めている。その中で業務の偏りを把握し、適正な人員配置を進めている。

- ・課題意見「紙の様式が多く、アナログ作業が残っている」
→学生の出席管理や成績管理は校務支援システムにより効率化されている。
→申請書類については、できるものから順番にオンライン化をしている。
寮生の外泊申請について、アプリを導入して申請できるようにし、
効率化につなげている。

★ 3. 教育活動

評価 3.3

- ・課題意見「授業評価の定期的な実施がない」
→学生が教員の授業を評価する授業アンケートを実施し集計した。
各教員それを見つめ直して、令和3年度後期に向けて自己目標シート
を作成し、授業の質向上につなげている。

★ 4. 学修成果

評価 3.3

- ・課題意見「低い学力で入学し、授業にほとんど付いて行けなくて退学する
学生が存在する」
→航空工学科では併設高校生に対して、放課後に数学の補習を行い、入学前
の学力アップにつなげている。
- ・課題意見「卒業後のキャリア形成への効果の把握がされておらず、
改善への活用もされていない」
→卒業生に来校してもらい、キャリア形成についてテーマを持って講演して
いただく。学生が卒業してからどういう業務に携わり、どういった成果を
あげているか、在校生がイメージできる機会を作る。

★5. 学生支援

評価 3.3

- ・評価項目「学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか」
→奨学金は国からの奨学金を用意しており、これは年々利用者が増えて学校全体で100名近くの学生が利用している。他にも国土交通省が主体となって日本航空、ANA社へも資本提供して、パイロットを目指す学生に対する奨学金制度もあり、毎年3名の学生が利用している。
→入学時に英検2級以上取得学生については、有資格者特待生制度として年間に10～30万円、授業料を減免している。
- ・評価項目「課外活動に対する支援体制は整備されているか」
→学友会主催でスポーツ大会や球技大会を企画・開催している。

★6. 教育環境

評価 3.4

- ・評価項目「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」
→CAD演習室の端末はLANケーブルで直接つながっていて、通信環境は安定している。今後は、DX人材養成事業の取り組みとしてICT教室を整備して、プログラミングなどの授業は円滑にできるように対策の実進を進めている。

★7. 学生の受入れ募集

評価 3.3

- ・評価項目「学生募集活動は、適正に行われているか」
→オープンキャンパスに加えて、各高校に出向いてガイダンスおよび体験授業を行い、高校でのキャリア教育につなげていく。

✪ 8. 財務

評価 3.3

- ・学校経営について
→日本航空学園は本部で取りまとめて経営している。

✪ 9. 法令等の遵守

評価 3.4

- ・評価項目「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」
→仮置きしている建物については撤去は完了している。
- ・評価項目「個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか」
→DX 人材養成事業における情報リテラシー教育にて情報セキュリティ倫理の内容を強化し、社内情報、個人情報および最先端技術などの機密事項を厳密に取り扱う重要性を、事例を交えて教育している。

✪ 10. 社会貢献・地域貢献.

評価 3.5

- ・評価項目「生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか」
→石川県の地場産業である繊維メーカーと提携し、未来の CA が考えるお役立ち旅グッズを企画した。PBL 課題解決型学習の機会として、学生も積極的に企業の方と交流して商品の企画および提案を実施した。

✪ 11. 国際交流.

評価 3.6

- ・評価項目「留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか」
→留学生の母国における展示会の参加、あるいは出身学校に卒業生を派遣し、就職実績を PR する取り組みを行っている。

